

■効果の見える治水事業

高知県 甲浦地区（安芸郡東洋町）の急傾斜地崩壊対策事業

「急傾斜施設を利用した南海地震時の津波避難」



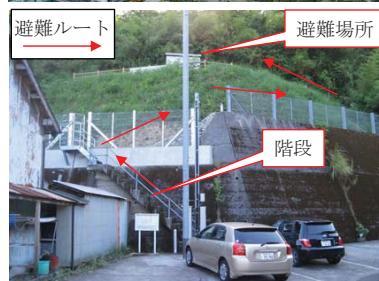
高知県土木部防災砂防課長 加藤 仁志

安芸郡東洋町は、高知県の最東端に位置し、大半が山地で、高い山岳が海岸近くまで迫っており、そのほとんどが室戸阿南海岸国定公園に含まれています。甲浦地区は急峻な地形により、複数の急傾斜地崩壊危険箇所が連担しているとともに、南海地震時の津波浸水想定区域にも含まれており、地区全体に甚大な被害を及ぼすことが想定されています。

甲浦地区の急傾斜地崩壊対策施設は、主に昭和40年代後半から50年代にかけて整備した箇所が多く、落石防護柵が腐食や破損している箇所があります。斜面崩壊が発生した際に、施設の機能を十分に発揮させるため、県単事業等により順次、落石防護柵の付け替えを実施しており、これに併せて、老朽化した管理用階段等についても付け替えを実施しています。

東洋町は地震発生から津波到達までの時間が、早い場所では5分以内、多くの地域が10分から30分の間に到達すると予想されています。人家の前には港、背後には山という地形である甲浦地区では、津波から避難するために背後の山へ登らなければなりません。急傾斜地崩壊対策施設として設置している管理用階段等を利用し、高台へ避難するための訓練や救急処置訓練を実施しており、地区住民の防災意識の向上を図っています。

高知県では、土砂災害の被害を最小限に留めるため、ソフトとハードが一体となり、防災対策を実施しています。今後は、南海地震が発生した際に懸念される斜面崩壊及び津波被害に対するハード対策として、特定利用斜面保全事業による斜面対策と津波避難場所の創出についても市町村と連携し、積極的に検討していきたいと考えています。



「防災のまちづくりへ」

東洋町は高知県の最東端に位置し、北部は徳島県海陽町、南部は室戸市に隣接し、室戸阿南海岸国定公園のほぼ中央にあり、輝く海に面した東西14km、清流野根川沿いの南北16kmで、面積は74.101km²に及び、全面積の約86%が山林で自然豊かな町です。

甲浦港は、古くから天然の良港として恵まれ、高知県東部海岸の避難港のひとつであるとともに、東の玄関口でもあります。



東洋町長 松延 宏幸

甲浦地区の中にある白浜地区の海拔は1.3mから4.6mであり、河口部の低地に住宅などが密集していることから、河川の氾濫による危険だけでなく、津波被害の危険が大きいが予測されています。

南海地震は、今後30年以内に60%程度の確率で発生すると予測され、歴史的にみると安政南海地震津波（1854年）で3m、昭和南海地震津波（1946年）で2.5mという推定浸水域の記録が残っています。高知県では平成17年度に、県下の津波浸水予測を公表しており、白浜地区においては大きいところで6m以上の津波高と予測されています。これを受けて、東洋町では平成22年度に津波避難計画を策定しましたが、更に見直しをしています。

現在の津波避難計画の中でも、津波到達時間を10～15分と想定するとともに、この津波到達時間から地震による揺れの継続時間及び避難準備時間を控除した避難可能時間を5～6分と示し、避難困難地域を示します。それにより白浜地区には津波避難困難地域が広く存在することが確認されています。さらに、人口が密集している上、災害弱者である高齢者の比率も45%に達していることから、白浜地区は最も早急な対策が必要な地域のひとつであることが判明しました。



『甲浦中学校 避難階段』

こうした状況下で、まず避難場所として整備したのが、甲浦中学校屋上へ上がるための避難階段です。しかし、そこだけでは白浜地区の全住民が避難することは不可能であることから、避難場所として防災避難タワーを2基建設いたしました。現在は、甲浦地区の中にある小池地区にも1基建設中となっておりますが、平成24年度以降には県補助を頂き、野根地区に2基、本庁舎のある生見地区へも1基の建設を計画しています。

高台への避難が出来る地区には避難道の整備を行っておりますが、避難道の維持管理、避難訓練を積極的に行い、まずは、「逃げること」という自主防災意識の向上に努めることが最も大事であると考えております。

今後も県の支援を受けながら、自主防災組織等の意見がすぐに反映できる組織づくり、リーダー役を養成するとともに、県、町、住民と一体となった防災事業により住民の生命と財産を守り、安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。



『白浜地区第1防災避難タワー』



『白浜地区第2防災避難タワー』